

### 1) 東海村広域避難訓練等について

記者： 6月に実施する広域避難訓練では，児童と避難要支援者の参加を予定しているようだが，どのようなことを確認したいと思っているのか。

村長： これまでは，避難者として，住民の方に要支援者の役をお願いして訓練を実施していたが，今回は実際の要支援者にも参加してもらい，どのような課題があるのかを確認したい。ただし，健康管理上，参加が難しい部分もあるため，現在調整中である。また，平日，学校等にいて家族と一緒に避難できない子供たちについても，学校単位でどのように避難できるのかについても確認したい。

### 2) 「自分ごと化会議 in 松江」(平成 31 年 3 月 14 日) について

記者： 平成 31 年 3 月 14 日に，島根県で開催された「自分ごと化会議 in 松江」に，東海村の職員も参加したようだが，東海村に松江の事例をどれだけ取り込むか（どの程度同じような手法を反映させるか）について，村長の考えを伺いたい。

村長： 「自分ごと化会議」の一つの肝は“住民がやっている”というところなので，行政が仕掛けるものではないという気はする。ただ，東海村内でそういった動きが出てくるといって，今のところ想像できないところがある。良い取り組みだとは思いますが，誰が始めるかということについては，まだ私もどうしたらよいか模索中である。

記者： 仮に，住民からそういう動きがなかった場合には，そのまま（ないまま）終わってしまうのか。

村長： まだ知らない方も多いと思うので，「自分ごと化会議」のような取り組みを紹介していくことは必要だと思っている。場合によっては，会議に関わった方に，会議の内容等を説明してもらうことも必要かもしれない。

記者： 村が音頭を取ってやることはあまり考えられないということか。

村長： 村が主導で進めることは考えていない。その場合，行政が仕掛けたことになってしまうので，本来は住民が自らというのが理想。「自分ごと化会議」では，経費もクラウドファンディング（インターネットを通じて資金を募る仕組み）であり，無作為で対象となる住民を抽出する方法を採用するなど，全て自分たちで行っているのだから，そこが良いところだと思う。

### 3) 地方公務員の削減について

記者： 財務省で，2025 年度に地方公務員を 3 万人削減できるような試算があるが，そのことに関して東海村長の受けとめを伺いたい。

村長： さまざまな考え方があるが，データを見る限りでは，そういった考え方も理解できなくもない。実際の市町村行政では，それぞれ全く同じことをやっているわけでは

ない。地域によって状況は異なるので、それは実情に合わせて考えるべきで、国が一律でやろうとすると、反発も出ると考えられる。一つの問題提起としてとらえている。

#### 4) 保育士等緊急対策事業について

記者： 保育士等緊急対策事業について、まずは3年間の期限を設けて、緊急対策の取り組みを進めるということだが、保育士確保という課題に対する危機感について教えてほしい。東海村はそもそも他の自治体に比べ時給換算が高く、助成金を設定しているなどという現状もあるようだが…

村長： 実際、公立保育所で働く保育士の時給は、近隣自治体よりも高い。ただ民間保育所で働く保育士の時給を考えると、(給料に)“上乘せ”する形で対応する方が、広く制度を適用できると考えている。

3年という制度は臨時的な措置であり、本来は、本給できちんと手当しなくてはならないと考えている。この制度によって、民間保育所の経営者が、保育士にとって給料というインセンティブがどれだけ大きいのか、それで保育士を確保し、保育園自体の運営が安定するのであれば、それは(給料について)自ら考えてもらいたいのので、そこで改善されれば、この制度は不要になると思う。

あとは近隣の状況をよく見ること。県南の方では、各自治体が助成制度を競い合っている状況があるが、それは避けたい。今回、東海村は近隣に先駆けて事業を実施してしまったが、それだけ緊急事態であることを認識しているためだ。東海村だけが良くなればよいというのではなく、全体として底上げできるように見極めていきたい。

記者： 保育士が足りないために、東海村で、実際に施設を運営できない、開けないというケースはあるのか。

村長： 0歳児クラスなどで保育士をうまく充てられなかったり、子育て支援センター(通常の保育以外で、子育て支援、相談受付等を実施するところ)の事業に従事する保育士が確保できず、そこを閉じてしまったりしているケースはある。東海村だけではないが、新しい保育所ができると、保育士の奪い合いになってしまい、確保ができないという声も聞いている。